

2016 年 4 月 25 日

四国電力株式会社取締役社長
佐伯 勇人 殿

原子力民間規制委員会・いかた
原子力民間規制委員会・東京

抗議および要請

「原子力民間規制委員会・いかた」と「原子力民間規制委員会・東京」は1月18日に18項目の規制勧告書を手交し文書回答を求めました。貴社はその場で1カ月後に回答すると約束したにもかかわらず、1カ月後に「文書回答は今回も今後もできない。原子力本部に來れば口頭で回答する」「技術系担当が再稼働準備で忙しいので、あと1カ月の猶予がほしい」と電話連絡がありました。

こちらは1カ月の延期を認め、3月29日ではどうか、口頭回答なら、面談による質疑応答の場とし、場所はヨンデンプラザ松山ではどうかと提案しました。そして、人数制限、時間制限、名簿提出などの条件は受け入れられないことをお知らせしました。公衆の安全に係わる問題は隠れてこっそり議論する問題ではなく、公衆に公開された場で議論するのが当然だからです。

そのうえ、貴社からは「その日は年度末で多忙のため無理である。4月中～下旬に連絡する。場所は原子力本部とする」と連絡がありました。

このように四電の規制勧告に対する回答が遅れているので、規制勧告・回答を読んで検討したうえで行うことになる聴聞の場（いわゆるヒヤリング）を同時におこなうこととし、4月25日に公開ヒヤリングをおこなうことを通知しました。これに対し、四電は4月25日の開催を認めたものの、場所を原子力本部とし、出席者を制限してきました。このヒヤリングは、民間規制委の主催によるものであるだけでなく、被害を受ける公衆に開放されなければなりません。四電がかような条件に固執するのは、規制勧告に答えきれない様子を公衆に知られたくないからで、そういう「我がまま」を押し通したことになります。この点に抗議します。

その後繰り返し公開ヒヤリングへの出席を要請しましたが、貴社はかたくなに返事を変えませんでした。

そこでやむなく模擬公開ヒヤリングをおこない、規制勧告に対する九電の回答から四電の回答を予想し、この予想された回答に対して聴聞をおこなうこととし、実行しました。

この模擬公開ヒヤリングの内容は文書化しますので、この内容を参考にして、規制勧告に回答くださるよう求めます。そして、この回答に対する聴聞を行いますので、その時には公開ヒヤリングに出席くださるよう強く要請します。

以上